岩手大学震災復興推進レター

「岩手の復興と再生に」オール岩大パワーを

vol.8

発行者
国立大学法人
岩手大学
総務企画部総務広報課
〒020-8550
岩手県盛岡市上田3-18-8
TEL 019-621-6015
FAX 019-621-6014
E-mail kkoho@iwate-u.ac.jp

平成24年8月31日発行

http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml　岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

女性起業家育成・新事業化セミナーin久慈を開催しました

平成24年7月18日、久慈市役所において、「女性起業家育成・新事業化セミナーin久慈」（共催：久慈市）を開催しました。

当日は、予定定員20名を大幅に上回る約30名の参加があり（久慈地域以外から9名）、女性起業家の育成・支援というテーマへの関心の高さがうかがえました。

セミナーでは、はじめに岩手大学（小川薫准教授、五日市知香客員准教授、松館敦子非常勤講師）から、地域連携推進センターの取り組み、商品開発、プレゼン手法といった起業支援の事例紹介が行われました。

セミナーの様子

続いて、実際に起業した女性経営者と老舗企業の経営を引き継いだ女性経営者から、岩手大学との共同研究によってなし得た新事業の事例が紹介され、参加者は熱心に聞き入っていました。

セミナー終了後は、講師・発表者への質問や参加者同士の情報交換の場が持たれ、参加者からは「事例発表から自分自身で立ち上がる・踏み出す勇気を頂いた」、「自身の事業で地域が元気になれるよう頑張りたい」、「商品開発の新たな視点を得られた」等の感想のほか、「起業を目指す人を対象とした講義形式やワークショップ形式でセミナーを開催してはどうか?」とのご提案も頂きました。何よりも「岩手大学が様々な分野での支援プロジェクトを発足させ、復興と再建に力を注いでくれているのはとても心強い」との感想からは、岩手大学への強い期待が感じられました。

岩手大学では、今後も沿岸地域をはじめ、岩手の復興期をリードする女性の起業と起業後の活動を積極的に支援していきます。

県内有識者による第1回岩手大学三陸復興推進会議を開催しました

平成24年8月6日、県内の有識者による第1回岩手大学三陸復興推進会議（議長：藤井克己岩手大学長）を開催しました。

この会議は、岩手大学が取り組む三陸復興推進事業のあり方について学外有識者から意見等を求めるために設置したもので、多様な観点から忌憚のないご意見をいただくため、県内各界の有識者の方々に委員にご就任いただいております（委員名簿は別表参照）。

第1回目の開催となった今回の会議では、水産業復興とものづくり産業復興に関する取り組みを中心に約2時間にわたって議論が行われ、活発な意見交換が行われました。

議長を務めた藤井学長は、「今後も引き続き腰を据えて、長期的に復興支援に取り組んでいきたい」と述べ、復興支援の決意を新たにしていました。

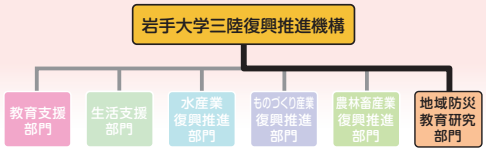
岩手大学では、今後も有識者や三陸の住民・企業の方々からご意見をいただきながら、より良い復興支援活動を行っていきます。

岩手大学三陸復興推進会議　委員名簿

議長	藤井　克己	岩手大学長
	野田　武則	岩手県沿岸市町村復興期成同盟会会長（釜石市長）
	高前田寿幸	岩手県復興局副局長
	斎藤　雅博	いわて未来づくり機構（岩手銀行専務取締役）
	鈴木　　修	岩手経済同友会専務理事・事務局長
	平賀　圭子	NPO法人参画プランニング・いわて理事長
	遠藤　　隆	テレビ岩手編成技術局長
	岩渕　　明	岩手大学理事・副学長・三陸復興推進機構長

7名の委員（代理出席含む）が出席した

岩手大学三陸復興プロジェクト



岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、災害に強い施設づくり・町づくり、防災を担う人づくりをキーワードとして、様々な自然災害に対応した研究や活動の推進に取り組んでいる地域防災教育研究部門をご紹介します。

地域防災の教育・研究・活動の拠点形成を目指して

岩手大学三陸復興推進機構　地域防災教育研究部門
堺　茂樹（地域防災研究センター長　工学部　教授）

岩手大学工学部附属地域防災研究センターでは、自然災害の発生メカニズムの解明や防災・減災システムの開発、小中学校での防災教育への支援や地域での防災リーダー育成などの活動を行ってきましたが、この度の東日本大震災を契機に、被災した地域の復興を推進し、地域防災に関する教育・研究・活動の拠点を形成することにしました。そこで文部科学省からの支援を受け、これまでの工学部附属地域防災研究センターを強化・充実し、文理融合型の全学施設として、岩手大学地域防災研究センターを設置しました。

本センターでは、地域特性に応じた「多重防災型まちづくり」と「災害文化の醸成と継承」を基本として、地域の視点に立った、あるいは地域の発想による「ボトムアップ型防災システム」の構築を目指す研究を推進するとともに、被災地の大学として東日本大震災からの復旧・復興活動に全力で取り組んでいます。

本センターには、「自然災害解析」、「防災まちづくり」、「災害文化」の3部門があります。「自然災害解析部門」では、地震・津波の解析やその結果を踏まえた防災対策案の検討などが活発に行われており、また火山噴火や洪水、土砂災害などを対象とした研究も行われています。「防災まちづくり部門」に所属する教員の多くは、国、県、市町村が組織する復旧・復興関連の委員会などに参画しており、これまでの研究成果を復興計画に活かすと同時に、実践の中で新たな視点からのまちづくりを模索しています。「災害文化部門」での現在の主な活動としては、学校での防災教育や自主防災活動への支援があげられます。また、自然そのものの理解や自然災害への備えの重要性を広く知ってもらうために、地域防災フォーラムを定期的に開催する予定であり、また行政機関での危機管理体制を強化するための研修プログラムを計画しています。こうした研究と活動を通して、1日も早い被災地の復興に全力で取り組みたいと考えています。

評論家の柳田邦男氏をお迎えし、センター設置記念特別講演会として開催された「第1回地域防災フォーラム」

町内会単位で検討が進められている地域の防災体制についての勉強会

釜石サテライトだより

釜石サテライト特命課長
及川豊史

●新スタッフの紹介

7月1日付けで人事異動があり、佐藤貢前特命課長の後任に及川豊史前人文社会科学部主査（副事務長）を迎えました。

●釜石今昔（エンクラエン山）

7月1日付けで特命課長に任ぜられ、釜石サテライトで勤務することになりました。40年ぶりに釜石市民になり、平田地区の仮設住宅を借りておりますが、通勤途上で目にする被災跡に毎日心を痛めています。ただ、山や河は昔のまま残っており、少年時代を思い出しながら心を慰めています。

釜石の山で特に印象深いのが、「エンクラエン」と呼んでいた山です。遠野方面から町中に入ると右手に見えてくる、頂上が平らな、ギアナ高地のテーブルマウンテンに似た山です。

昭和40年代半ばの「エンクラエン」

釜石市郷土資料館にある資料（岩手東海新聞の昭和62年10月5日の記事「ノロ捨て山」）によると、この山は、昭和10年から39年までの間、溶鉱炉のノロ（鉱滓）を捨てて出来た山でした。そのノロを運搬するトロッコを引き上げる鉄道施設が「インクライン(incline)」と呼ばれるもので、それが山の名前になり、なまって「エンクラエン」と呼んでいたようです。夜間に赤く光る火は絶景であったと記事には書かれており、鉄の歴史館にもこのノロ捨ての写真が展示されています。その後、ノロは平田海岸の埋め立てに使われ、埋立地は、1992年の三陸・海の博覧会の会場用地になり、現在は岩手県水産技術センターなどの用地となっています。

通勤途上で目にしていた被災施設の撤去作業が始まりました。コンクリートがらを道路の路盤材に活用するなど少しずつ復興計画が進んでいます。

●「安全」の木

昭和50年代初めのころ、インクラインのあった斜面が整備され、「安全」という文字が浮かぶように木が植えられました。釜石線を利用して帰省していた時期によく目にしていましたが、その後整備がなされなかったため、今は面影がなくなっています。安全を保つには、常に保安、保全が必要であると、この安全の木が教えているような気がします。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先　釜石サテライト
〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町15-2 釜石市教育センター5階
TEL:0193-22-4420／0193-22-4426
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp

Information

セミナー「発酵食品開発セミナー」

三陸復興推進機構マーケティング戦略班では、三陸沿岸部の水産加工に携わる方々の新商品づくり支援を目的としてセミナーを開催します。セミナーでは、海産物の発酵食品化による高付加価値商品の開発やインターネット販売にあたってのヒントなどをご紹介します。

日時：9月14日(金)14：00～17：00
場所：釜石ベイシティーホテル　2階「さんがん島」
（岩手県釜石市大町1-8-1　無料駐車場あり）
対象：水産加工企業、販売店、一般（無料）
講師：福井県立大学生物資源学部長・教授　宇多川隆氏
カゴメ(株) 総合研究所　プロバイオティクス研究部長　矢嶋信浩氏
(株)ぐるなび　プロモーションマネージャー　河口真紀氏
岩手大学農学部教授　礒部公安氏

申し込み先　岩手大学地域連携推進センター　対馬正秋教授
iptt@iwate-u.ac.jp　TEL:019-621-6494

公開講演会「震災と歴史学」

三陸復興推進機構生活支援部門文化財保護支援班では、被災地における歴史資料の確認調査や救出活動を行ってきました。そのような活動や震災そのものと「歴史学」との関係を検討するため、講演会を開催します。

日時：10月6日(土) 13：30～17：00
場所：岩手大学　総合教育研究棟(教育系)(旧教育学部1号館)・北桐ホール
対象：一般（入場無料・申し込み不要）
講師及び演題：
保立道久氏 (東京大学)
「平安時代における奥州の規定性　― 九世紀陸奥海溝地震を切り口に ―」
大門正克氏 (横浜国立大学)
「「生存」を問い直す歴史学　― 震災後の現在と岩手県の戦後史との往還を通じて ―」

お問い合わせ　岩手大学教育学部　佐藤由紀男教授　yusato@iwate-u.ac.jp

編集後記

地域の伝統的な祭り「盛岡さんさ踊り」が8月1日から4日間の日程で行われ、今年は過去最多の245団体、延べ約34,000人が出場しました。「和太鼓同時演奏」でギネス記録も達成しているこの祭りは、笛や踊り手に加え迫力ある太鼓の演奏が見所の一つです。毎年参加している岩手大学は、2ヶ月以上も前から各パートに分かれて厳しい練習に励み、教職員と学生213名が出場しました。日頃お世話になっている地域の皆さまに感謝の気持ちを込めた精一杯の演技で「優秀賞」をいただきました。